

判にもなった。

いすみ健康マラソンのコースは資料-2の写真のようなコース。里山の間をぬいながら田んぼのなかを走るといったようなコースだ。今、マラソン大会は、どんどん新設されている。例えば北陸新幹線の開通をきっかけに11月第1週には「富山マラソン」、第3週には「金沢マラソン」が新設された。そして第2週には「岡山マラソン」も開催。多くのマラソンが誕生しているが、マラソン大会の新設にはいくつかの課題がある。主なものを挙げると次の3点だ。

- 交通規制 …… 国道、踏切、商業施設
- 予算 …… 自治体の負担
- 運営 …… スタッフの確保

まずは交通規制。公道の使用は警察の許可が必須だが、いすみの場合は「国道を横切ってはいけない」、「踏切はダメ」と制約が多かった。ショッピングモールの駐車場の出入りなども検討する必要がある。最高の目抜き通りで観光ランニングをやろうとしても、この「規制の問題」というのが大きい。

また、自治体が主催で行うことが多いマラソン大会は自治体の財政状況次第という面もある。専任の担当者もそうだが、当日の運営の面でも、お金をかけないように警備や交通整理、駐車場などを誘導する係が必要だ。外注に頼り過ぎると予算もオーバーするため、市の職員の労働力が欠かせないものになる。

スタート、ゴール会場となるのは「ふれあい会館」という市民会館を使用している。マラソ

JR外房線利用状況

①長者町駅降車実績

| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 | 第6回 | 第7回 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 上り降車者数 | 229 | 93 | 121 | 52 | 47 | 48 | 35 |
| 下り降車者数 | 667 | 1,416 | 993 | 1,082 | 1,126 | 1,243 | 1,341 |
| 降車者総数 | 896 | 1,509 | 1,114 | 1,134 | 1,173 | 1,291 | 1,376 |
| (うち特急利用者数) | (280) | (611) | (253) | (263) | (403) | (436) | (530) |
| (うち各駅利用者数) | (616) | (898) | (861) | (871) | (770) | (855) | (846) |

②長者町駅乗車実績

| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | 第5回 | 第6回 | 第7回 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 上り乗車者数 | 490 | 1,074 | 979 | 987 | 1,135 | 1,248 | 1,317 |
| 下り乗車者数 | 277 | 117 | 126 | 73 | 60 | 71 | 59 |
| 乗車者総数 | 767 | 1,191 | 1,105 | 1,060 | 1,195 | 1,319 | 1,376 |
| (うち特急利用者数) | (107) | (328) | (290) | (337) | (428) | (544) | (521) |
| (うち各駅利用者数) | (660) | (863) | (815) | (723) | (767) | (775) | (855) |

資料-3

地域振興型マラソン大会の可能性

ン大会はメイン会場の選定が重要である。マラソンシーズンは寒い時期が多いので、着替えの場所に配慮しなければならない。またトイレの清潔感、数が十分かという点も大事だ。女性はそのような快適性を大会を選ぶ際に重視する傾向にある。いすみ健康マラソンでは「ふれあい会館」という名前の通り、みんなが交流をしたくならないような素敵な会館を活用している。ホールを開放し暖房もかけて休憩や着替のスペースにしている。女性向けには会館内の交流室（畳敷きで100畳）を更衣室にしている、これが好評を得ている。

マラソン大会は交通アクセスの良さも重要である。会場はJR東日本の駅から500mほどしかない。しかし、その最寄りの駅には普段は各駅停車しか停まらない。そこでJR東日本に協力を依頼し、上下5本の特急が臨時停車することとなった。加えて「特急いすみマラソン号」という臨時列車も走らせて頂いている。

課題もある。沿道の応援が少ないことだ。コースが田園地帯なので住民が少ないことに加えて、高齢化が進む町なので、寒くなると特に応援が少ない。ランナーにとって沿道の応援があるかないかは大きな違いになる。そこで「人がいなかったら、人の代わりに「かかし」を並べよう」と、夏のイベントで使ったかかしをコース上に並べたのだ。今、それが大好評で、ランナーの書き込む掲示板などに「かかしが良かった」「来年もかかしに会いに行きます」という人も多く、何が幸いするかわからないものだ。やはり、都市部から癒しを求めて参加するランナーに好評価をもらうための施策を考えることが、ポイントとなる。

資料-4に示すように、いすみ市内の参加者は横ばいだが、千葉県外、千葉県内（いすみ市除く）の伸び率が大きい。いすみ市内の参加者のうち約700人は土曜日の小中高校生の部の参

| 地域別参加者数（単位：人） | 2008年 | 2010年 | 2012年 | 2014年 |
|---------------|-------|-------|-------|-------|
| | 第1回 | 第3回 | 第5回 | 第7回 |
| いすみ市内 | 1,161 | 1,192 | 1,126 | 1,102 |
| 千葉県内（いすみ市除く） | 1,640 | 2,635 | 3,095 | 3,165 |
| 千葉県外 | 349 | 687 | 871 | 900 |
| 北海道・東北 | 5 | 7 | 18 | 15 |
| 関東 | 330 | 661 | 815 | 830 |
| うち東京 | 185 | 410 | 485 | 472 |
| うち神奈川 | 66 | 142 | 201 | 227 |
| 北陸・中部 | 6 | 15 | 23 | 38 |
| 関西 | 5 | 2 | 9 | 11 |
| 中国・四国 | 2 | 2 | 3 | 2 |
| 九州・沖縄 | 1 | 0 | 3 | 4 |
| 合計 | 3,150 | 4,514 | 5,092 | 5,167 |
| 男性 | 2,036 | 2,954 | 3,338 | 3,291 |
| 女性 | 1,114 | 1,560 | 1,754 | 1,876 |
| 女性比率 | 35% | 35% | 34% | 36% |

資料-4

加なので、市外からの参加者の割合は9割近くになる。市外からの参加者の伸びを重視し、施策を行ってきた。JR東日本の協力により、東京駅構内に大会ポスターを掲示させて頂けたことが大きい。今後はJRの利用者を増やすためにも、県外からの参加者増加により一層注力することを課題としている。

お客様をお迎えするという市民の意識も高く、日本最大のランナーの情報・交流サイト「RUNNET」の人気投票で7年連続で、全国ランニング大会100選に入っている。しかも7回とも25位以内。千葉県25位以内に入っているのは1つだけである。

また、参加者の分析で注目されるのは女性参加者の比率の高さである。女性に人気の東京マラソンで約23%になっているのが現状だ。やはり、着替えスペース、トイレなどへの配慮が功を奏していると言えよう。

次に大会の決算について述べる。主な収入は参加費だ。ちなみに千葉県が開催しているアクアラインマラソンは、ハーフの参加料は9500円。いすみ健康マラソンは3800円なので半額以下だ。ハーフマラソンの参加料は5000円前後が主流になっているが、いすみ健康マラソンはかなり格安である。収入から見てみると、参加料と市の補助金、そして協賛金だ。市の補助金は赤字補てんの意味合いが大きい。協賛金は小口で100件。収入の半分が参加費で、市の補助金

【収入の部】

(単位：円)

| 項目 | 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | 6回 | 7回 |
|-----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 参加費 | 5,487,000 | 9,446,500 | 9,610,500 | 9,961,500 | 12,423,500 | 12,863,620 | 14,193,382 |
| 協賛金 | 5,000,000 | 5,500,000 | 5,800,000 | 6,500,000 | 6,500,000 | 7,500,000 | 2,210,000 |
| 補助金 | 2,760,000 | 1,880,000 | 1,585,000 | 1,810,000 | 2,130,000 | 2,210,000 | 6,500,000 |
| 雑収入 | 3,029 | 1,463 | 79,668 | 61,259 | 25,394 | 81,533 | 83,228 |
| 繰越金 | | 1,878,211 | 60,628 | 23,955 | 633,677 | 943,301 | 711,870 |
| 計 | 13,250,029 | 18,706,174 | 17,135,796 | 18,356,714 | 21,712,571 | 23,598,454 | 23,698,480 |

【支出の部】

(単位：円)

| 項目 | 1回 | 2回 | 3回 | 4回 | 5回 | 6回 | 7回 |
|----------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 報償費 | 2,082,917 | 6,515,098 | 5,688,738 | 5,927,748 | 7,431,317 | 7,481,457 | 7,610,126 |
| 旅費 | 155,300 | 110,750 | 164,340 | 161,760 | 231,280 | 139,660 | 160,748 |
| 需用費 | 3,172,174 | 3,662,108 | 2,636,337 | 3,188,241 | 3,278,849 | 3,570,462 | 2,987,524 |
| 役務費 | 977,907 | 1,302,603 | 1,029,242 | 986,071 | 948,750 | 1,098,464 | 1,034,596 |
| 委託料 | 3,522,789 | 5,628,872 | 5,932,614 | 5,784,387 | 8,408,642 | 9,936,684 | 10,224,735 |
| 使用料及び賃借料 | 1,115,000 | 1,291,115 | 1,660,570 | 1,674,830 | 440,045 | 581,202 | 810,997 |
| 工事請負費 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 |
| 原材料費 | 60,451 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 |
| 備品購入費 | 285,280 | 135,000 | | 0 | 30,387 | 78,655 | 0 |
| 利子及び割引料 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 45,500 |
| 計 | 11,371,818 | 18,645,546 | 17,111,841 | 17,723,037 | 20,769,270 | 22,886,584 | 22,874,226 |

が3分の1というイメージだ。

支出面では計測に対する費用が一番大きい。手作りでの大会運営を目指してはいるが、タイム計測や音響、舞台といった部分はプロに委託しなければならない。また本大会ではそれほど高額にはならないが、都市型マラソンなどは警備費が大きなウエイトを占める。アクアラインマラソンの参加費が高くなる理由は高速道路を封鎖する営業補償と、橋梁部の警備に多数の人員を配置しなければいけないためと思われる。

いすみ健康マラソンの場合、ハーフの3800円の参加費だけであれば、補助金や協賛金なしでもほぼ運営できる。しかし小中高生は体力作りを目的とし、参加費を800円にしているためその部分が大きな赤字となる。タイム計測に参加賞などの費用は大人と同じ位かかってしまうためだ。その赤字を埋めるのが市の補助金と考えている。

いすみ市教育委員会 生涯学習課 社会体育班

マラソン専任担当 当初2名（現在1名）

| | | |
|----------|------|------------|
| 市職員 | 177名 | |
| 体育協会等 | 158名 | |
| 消防署員・団員 | 106名 | |
| 国際武道大学 | 90名 | |
| 青少年相談員 | 47名 | |
| 女性の会等 | 39名 | |
| サーフィン業組合 | 10名 | (AED救護班) |
| 交通安全協会等 | 21名 | |
| 公募ボランティア | 114名 | |
| 委託業者 | 56名 | |
| 合計 | 818名 | (日曜日・一般の部) |

そして、これは運営スタッフについて。5000人規模のマラソン大会を地域で開催する時には、やはり1人もしくは2人は専任の運営スタッフが必要だ。当初の立ち上げ時期には2人の専任。現在は1名の専任担当者が教育委員会の生涯学習課社会体育班にいる。マラソン大会の運営を片手間でやることは大変難しい。1年間ずっとマラソン大会のことを考え、いかに参加者に喜んでもらえるか、どう改善していくかを考え続ける必要がある。

当日の運営では、市の職員、体育協会、消防署、消防団員など、市民参加型で行っている。特に女性の会の“おばちゃんパワー”がすごい。運営スタッフの大半がボランティアで、委託業者は56名のみ。ここが運営費用削減のポイントとなる。

課題も多いが、この大会を開いた効果としてまず挙げられるのが、いすみ市という名前が、ランナーの間ではずいぶん広まったということだ。合併する前の夷隅郡から10年前に合併してひらがなの「いすみ」になった。いすみ健康マラソンの開催と共に、東京駅などにもポスターが貼られているため、PR効果は大きな成果が上がっている。

次にまだ発展途上である点は、合併した三町が一体化だ。三町を結ぶコースが理想だったが、前述した国道や踏切などの問題で断念。結局理想的なコースが作れず、筆者の出身の岬町だけのコースになってしまった。「三町の一体化」という面では、これからいろいろもっと考えていかなければならない。

元気づくりの面は大きな成果が上がっている。大会当日はお祭りと同じような感じだ。市民みんなが待っている。特に子どもたちの良い舞台になっており、そこでがんばって、「トロフィーをもらいたい、去年はだめだったが今年こそは」と目標とする発表の舞台になっているので、子ども達の元気づくりが出来ている。また、子どもたちの舞台は走るだけではない。場内アナウンスを順番に持ち回りで地元の中学の放送部で行っている。開会式前には太鼓のクラブの演奏で盛り上げる。自分が加われる、関わることのできる舞台があるので、全体が元気になっている、元気づくりができていると思われる。「健康づくり」は、子どももそうだが、ウォーキングの部もあり、おじいちゃんおばあちゃんも、ここに参加して、身体はもちろんだが、気持ちの面で健やかな元気づくりにずいぶんと貢献できている。

地域型マラソン大会の一番の効果は「地域のつながり」だと思う。警備を担当する消防団の方々、婦人会の方々、運営に携わる者同士が、年に1回のマラソン大会を通して、つながっていける。沿道の応援も年々工夫を凝らし、市民それぞれが参加している。マラソン大会を開催することで、地域が元気になっている実感がある。

| | |
|-------------------|---|
| 合併後の「いすみ市」のPR | ○ |
| 旧三町の一体化 | △ |
| 体力づくり 健康づくり 元気づくり | ○ |
| 地域のつながり | ◎ |

地域活性化 > 経済効果

経済効果はそれほど期待できない。イベントは前日の小中学生の部も含めわずか2日間。その時に、ビールが売れたり、イセエビのお汁が売れたり、少しはあるかもしれないが。経済効果は小さい。それよりも、地域のみながつながり、地域が元気になるということ。その効果が大きくて、毎年「いすみ健康マラソン」を開いている。

地域振興型マラソン大会の可能性

2007年の東京マラソンがエポックメイキングになり、以降、大都市型マラソンが次々に誕生し、盛況を呈している。予算規模は数億円にもなるが宿泊者数も多く、スポーツツーリズムの代表的イベントだろう。経済効果も十分に期待できる。

そんな中、地域振興型マラソン大会は今後二極化が進むと思われる。特徴がない大会はランナーが集まらず、自治体の費用負担が重くなり廃止されるものも出てくるだろう。小規模で継続するのであれば地域の健康づくり、子どもの体力づくりに特化する方向転換も必要だ。ランナーの人気を得て、参加者数が安定している大会では、マンネリ化を回避する施策が求められる。集客力の大きな都市型マラソンが増加する中、地域振興型マラソン大会は、より一層の工夫と住民の参加が成否のカギを握る。この大会報告がその一助となることを願っている。